

## ヒメザゼンソウ (サトイモ科) の開花

美唄市 新田 紀敏

話は2012年に遡ります。職場の敷地内で花見をしていました。その時、すぐそばのちょっと湿っぽいところにヒメザゼンソウがたくさん出ているのに気がつきました。この植物は葉はよく見るのに花はなかなか見られないため、この1群を観察していれば確実に開花を確認できると思いました。

ヒメザゼンソウ *Symplocarpus nipponicus* Makino はサトイモ科で高さ5cm程度のザゼンソウを小さくしたような目立たない花をつけます(図1)。葉はザゼンソウより薄くレタスのようにくしゃくしゃとした印象で、まだ植物が少ない4~5月の湿った地面で目立つ存在です(図2)。北海道、本州、朝鮮半島に分布します(邑田2015)。

ヒメザゼンソウの花を確認しづらい大きな要因は、ザゼンソウとは違い葉が枯れた後にこっそりと開花することです。その頃生育地は夏草に覆われており、枯れた葉を確認することも容易ではありません。しかしここは職場の敷地内です。頻繁に見回り草刈りすることも可能です。その場所も夏

には草むらになるので、光を当てて栄養をつけさせるためと開花を見逃さないために草刈りが必要だと考えました。

それから毎年、6月から7月は草が伸びるたびに刈り払い、花はないかと探し続けました。しかし、なかなか花を確認するには至りません。時は流れて2020年6月5日、この年も草刈りを始めた日、刈り払った草をかたづけていると思いがけず果実があるのを見つけました(図3)。なんと、前年開花していたのを見逃していたのでした。この植物の果実は成熟に2年かかり、開花した年は未熟のまま年を越し、翌年に熟したタネを放出するのです(邑田2015)。しくじったなと思いましたが、開花条件が整ったのであれば今年もまもなく咲くだろうと期待されました。

果たして3週間後の6月24日ようやく仏炎苞が土の中から頭を出しているのを見つけました(図4)。花の寿命は短く頭を出してから6日後の30日には仏炎苞が溶けてしまいましたが(図5)、その後は次々と開花し、7月初めまで1坪くらいの場所



図1 ヒメザゼンソウの花



図2 ヒメザゼンソウの葉とエゾエンゴサク